

No.445

企画展「大自然 立山連峰 ヤッホー 3000m の世界へ」展示解説

火山！立山

2014年9月に長野県の御嶽山が噴火したことをきっかけに、立山の火山活動について関心が高まっています。今回は、立山駅から立山室堂平周辺で、立山が火山であることがわかる5つの証拠をご紹介します。

1 ケーブルカーから見る「材木石」(約15~10万年前の活動)

立山駅からケーブルカーに乗って美女平駅へ向かう途中、「材木石」と呼ばれる柱のような石を見ることができます。この形は「柱状節理」と言い、熱い溶岩が冷えて固まる時に収縮してできたものです。



材木石

2 火砕流がつくった平らな地形(約10万年前の活動)

美女平駅からバスでなだらかな弥陀ヶ原台地を上がっていきます。地名を見てみると、「美女平」、「下ノ小平」、「上ノ小平」、「天狗平」、そして終点の「室堂平」まで、地面が平らであることを示す地名がついています。この地形は、かつて立山の大噴火により発生した火砕流が、当時の谷地形を埋めたために作られました。



弥陀ヶ原

3 溶岩流がつくったなだらかな山(約9~4万年前の活動)

天狗平から室堂平へ向かうと、バスの右手に「天狗山」、「国見岳」、「室堂山」が順に見えてきます。これらの山は、溶岩の噴火によってできたために、雄山などと比べなだらかな形をしています。(はちみつのようなドロドロとした液体を流すとなだらかに広がるのと同じです。)



室堂平と室堂山

4 地獄谷周辺のくぼ地(約4万年前~現在の活動)

地獄谷周辺にはくぼ地が多くあり、そのうちの幾つかがミクリガ池などの湖になっています。これらのくぼ地は、地獄谷周辺で起きた水蒸気爆発によって地面が吹き飛ばされてできた爆裂火口です。多くのくぼ地があることから、何度も水蒸気爆発が起きたことがわかります。



ミクリガ池

5 地獄谷の噴気活動(現在の活動)

地獄谷は、モクモクと白い煙が立ち上り植物も生えていない、まさに地獄のような場所です。この煙は火山ガスで、まさに立山が生きている「活火山」である証拠です。

科学博物館で5月24日(日)まで開催されている企画展「大自然 立山連峰」では、立山の火山地形の解説や地獄谷で産出する硫黄などの展示をしています。ぜひ見に来てください。(増渕佳子)



地獄谷の噴気活動